

2023年7月30日(日)

田中江交流の家午後1:30集合 参加者26名

午後1:40 井狩邸・午後2:30 江頭会館・至誠館・午後4:00 岡山城成澤



### 井狩家住宅

当主井狩さんよりお話が聞けました。当初は家の周辺のみのお話を許可していただけいたのですが、一部屋敷内に入れていただき、1時間のお話をさせていただきました。

大地主であり、庄屋を努め材木商や酒屋を営んでいた旧家で歴史の詰まったお屋敷でした。現在も代々生活されています。

この地区は朝鮮人街道の裏側にあたり広大な敷地に薬医門や長屋門を構え土蔵柄や土塀で敷地を囲う民家が立ち並んでいます。



### 江頭のまちづくり・至誠館



石橋氏



木田氏



平野氏

石橋様・木田様・平野様の3名の方に江頭町に残された多くの書物の管理について説明をいただきました。江戸時代に基礎行政組織である村単位で作成された文書が残されています。「江頭町自治会共有文章」公文書や教育関係文書と多岐にわたっています。後世に多くの残された文献の管理を町民がされ、街づくりに活かされています。3名の方に貴重なお話をさせていただきました。

### 至誠学校

明治6年に北里村(現江頭町)に、至誠学校(現江頭町公民館至誠館)が創設されました。



有形文化財 江頭町公民館至誠館(旧至誠学校) 未指定  
有形文化財 江頭町公民館児童図書館(十時太鼓堂) 未指定  
その他人文 江頭共有文書 未指定

建物は自治会館機能を持ち、江頭町自治会共有文書には、至誠学校時代に使用された教科書類が残るほか、明治初期の滋賀県教育行政に関する文書が唯一残されており、滋賀県の教育史を語るうえでその存在は欠かせないものとなっています。

建物は改築されているものの現存しています。八幡商人や地域有力者の持つ潤沢な経済力は、明治時代以降の市域の教育・文化の発展へと反映されることとなります。

明治10年～26年（1877～1893）にかけて滋賀県で行われた識字率調査（自分の名前が書けるか）において、市域の識字率は、男子約90%、女子約40%と、他府県と比較しても突出して高い結果となりました。これは、八幡商人等の輩出と、彼らが近江国出身者を奉公人として採用したこと、その際必要な文字の使用や計算能力の需要のため、地域で文字学びが奨励されたことに起因すると考えられます。

同年明治6年（1873）に八幡町では、八幡西学校（現旧伴庄右衛門家本家）、八幡東学校（現白雲館）が開校しました。西川甚五郎をはじめとする八幡商人たちは、開校に係る建設資金の提供のほか、西学校は大阪師範学校（現大阪教育大学）から、東学校は東京師範学校（現筑波大学）からそれぞれ教員を雇用し、高い教育環境を整えました。



**水荃岡山城（みずくきおかやまじょう）は、滋賀県近江八幡市牧町に築かれた日本の城。尾山城、岡山城、九里城とも呼ばれています。**

成澤和道氏の「岡山城と九里浄椿」

概要

南北朝時代、近江南部をおさめる佐々木氏が琵琶湖の水上警備のために築城した。頭山、岡山（大山）と呼ばれる山に連なるように遺構が確認されているが築城当時の規模ははっきりとしない。

歴史

1508年（永正5年）- 室町幕府の11代征夷大将軍・足利義澄が城主九里信隆（六角氏被官）を頼って都落ちをし、水荃岡山城に入った頃から、城の本格的な築城が行われた。

1510年（永正7年）- 幕府軍3000に城を包囲されるも信隆はこれを退けている。

1511年（永正8年）- 当城で後の12代将軍・足利義晴が誕生した。また、同年に足利義澄は帰洛を果たせぬまま当城で病没した。

1514年（永正11年）- 信隆が六角高頼に謀殺される。

1520年（永正17年）- 信隆の子浄椿が六角高頼・定頼父子および細川高国の連合軍に敗れ、城が落城した。



※当時の公家の日記（『二水記』永正17年8月11日条）によれば、当時の六角氏当主であった六角定頼は近江クノリ（＝九里）城を攻めるために細川高国に要請して五反帆の大船を兵庫津から琵琶湖に回航させているが、（京都から先は船では入れなかったために）牛車を用いて京都市中を引っ張って近江国内まで陸送を行い、京都の人々を驚かせたと記している。

1525年（大永5年）- 九里氏の残党が城に立て籠もるも敗れ、九里氏は滅亡した。この頃に廃城になったと考えられている。「備考」築城当時は一帯が琵琶湖水面であったため、浮き城とも称されていた。しかし、第二次世界大戦後の干拓事業により一帯は埋め立てられ水田地帯となり山も掘削され湖岸道路となっていることから周辺環境は様変わりしてしまっている。遺構の現況は竹林となっており、絶景を謳われた往時の景観は見る影もない。